

< 国際会議報告 >

ワークショップ「革新的原子力システムに関するアジア・ネットワーク」
(兼「第 5 回アジア ADS ワークショップ」) に出席して

武蔵工業大学大学院 エネルギー量子工学専攻
博士後期課程 1 年 羽倉尚人

2007 年 11 月 1 日から 2 日間に亘って、ソウル国立大学（ソウル，韓国）において開催されたワークショップに参加する機会を得た。本ワークショップは、日本，韓国，中国で開催されてきた加速器駆動未臨界炉（ADS）に関するワークショップを、革新的な臨界高速炉も含めるよう範囲を広げ、アジアにおける研究交流をさらに深めることを目的として開催された。初めてこうした国際的なワークショップに参加したが、各講演に対して活発な議論がなされており、大変勉強になった。ソウル国立大の学生と交流する機会を得られたことも、大変よい刺激になった。

ワークショップ 1 日目は、3 つのセッションから構成され、午前中は **Overview** として、各国の活動状況が報告された。午後には、**Reactor Physics-1, -2** のセッションが行われ、6 件の発表が行われた。2 日目は、**Nuclear Data, Fast Reactors**, および **Accelerators** のセッションが行われ、12 件の発表があった。

私は、2 日目の **Nuclear Data** セッションの中で、「**Sensitivity Analysis of Actinide Decay Heat**」と題して発表した。英語による口頭発表は初めての経験であったので、非常によい勉強になった。発表後、座長の Y. O. Lee 博士（KAERI）や日本からの出席者の方々に助けていただきながら、数件の質疑やコメントを頂くことができた。

両日ともに、発表のセッション終了後に、**Discussion & Summary** のセッションが設けられ、各発表に対する追加的な質疑や、鉛ビスマス冷却高速炉に関する議論などが行われた。2 日目の夕方には、ソウル国立大学内の **NUTRECK (Nuclear Transmutation Energy Research Center of Korea)** の施設を見学した。I. S. Hwang 教授の熱心な説明に、本プロジェクトに対する意気込みを感じる事ができた。

今回、本ワークショップに参加するに当たり、京大炉の卞先生を初めとした多くの関係者の皆様大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。また、次回は中国の西安で開催されるということで、機会があれば参加したいと思います。